

115 五
被

新型コロナウイルスの新規感染者が急増する東京で、救急医療体制が切迫しています。感染拡大に伴て患者の搬送先がなかなか決まらないケースが増加し、都民の命にかかる危機的な事態となっています。

(丹田智之)

「搬送先決まりず」急増

3日午後10時ごろ、世田谷区上用賀の生活道路と幹線道路が交わる交差点で小学校4年の男児（9）が自動車にひかれて死亡する事故がありました。報道によるところ、男児は弟（2）を乗せたベビーカーを押して横断歩道を渡っていたといい、左折してきた自動車と接触。現場に救急車が駆けつけましたが、新型コロナの影響で近くの病院に受け入れを断られ、数十分かけて品川区内の病院に搬送されただといいます。

「救急車動かす

小学4年の男児が自動車にひかれて死にする
事故があつた交差点――14日、東京都世田谷区

静かに立つ女性(29)
へた住む会社員の女性(29)

調整に時間がかかり 生命の危機

夕刻に消防署から出動する
急車=7台、東京都葛谷区

現場の負担増加

都の発表(13日午後8時)によると、都内の新型コロナ感染者のうち入院中は3266人で、ホテルや自宅などで療養中は955人です。入院・療養生者を調整中(待機中)の感染者は6546人に上ります。

東京消防庁救急管理課の担当者は「感染拡大と運動不足で救急隊の現場滞在時間が長くなる傾向がある」と説明。都内の救急搬送の現状について「自宅などで待機中の新型コロナ感染者が高熱や呼吸困難などの症状を訴えて救急車を呼び、ケータイが増え、入院先を決める保健所との調整に時間が要している。そのことで通常の救急患者の搬送に影響が出てしまふ」とも苦えられる」と述べています。

新型コロナが急拡大して受け入れ先が20分以内に決まらなかつたりしたケースが急増しています。また、救急車とパトカーが止まっているのが見えました。自動販売機で飲み物を買って家に戻るまでの救急車は同じ場所に止まつたままでした。かなり長く感じた」と振り返ります。

都救急災害医療課によると、救急搬送の際に力を所以上の中病院に断られたり、以上の病院に断られたり、受け入れ先が20分以内に決まらなかつたりしたケースが急増しています。

比175,000件増の1,600,000件に上りました。昨年10月は1,100,000件、同11月は1,260,000件と増え続けています。